

令和7年度 美術科 第1学年 年間指導計画

学期	月	時数	学習内容	評価規準			ICTの活用
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1学期	4月	1	・オリエンテーション				電子黒板
	5月 6月 7月	12	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩理論 (色の3要素) ・色見本一覧表 ・レタリング (明朝体・ゴシック体) ・英単語の平面構成 ・名画の鑑賞 	<p>美術とは何かを参考作品で知り、関心を持つ。色の仕組みを学び、作品作りへの意欲を高める。</p> <p>書体の中でも代表的な「明朝体」「ゴシック体」の特徴と描き方を理解する。</p> <p>また、各種の古典文様の意味と描き方を実践する。</p> <p>ジャポニズムとゴッホの人生を学ぶ。</p>	<p>美術が関係している事象を見つける。身のまわりの事物を色彩理論の観点から改めて見直す。</p> <p>スケッチブックの表紙に自分の名前を明朝体で正確にレタリングする。</p> <p>4分割し、レイアウトを考え、文字同士や背景との重なりを配色で表現する。</p> <p>各作品を読み解く。</p>	<p>学んだことをノートのまとめ、制作に生かせるようにする。</p> <p>自分の名前を仕上げる。</p> <p>自分の選んだ英単語の配置と構成を考え、原案を提出する。</p> <p>三つの大画面で作品の迫りに込める</p>	電子黒板 Neoroom
	8月		・ポスター(有志)	取り組むポスターの主題を決める。	主題を伝達する手法を試行錯誤し、効果的に表現する。	アイデアスケッチでアドバイスを聞いたり、夏季補習教室に参加する。	タブレット
2学期	9月 10月	12	・英単語の平面構成	自分が選んだ英単語の1字1字の意味やイメージを大切にし、その大きさや重なる部分も含めて効果的で統一感のある配色を考える。	単語の意味と色彩理論をふまえ、特に色が人に与える共通のイメージから配色をていねいに考える。特に重なる部分には透明感を生み出すよう工夫し、最後まで完成させる。	<p>アイデアスケッチの記録を残し、ノートに貼り、保管する。</p> <p>完成品を相互に鑑賞し、他の良さを認め、多様性を体感し、自己評価と今後の制作に生かす。</p>	電子黒板
	11月 12月	11	<ul style="list-style-type: none"> ・モダンテクニック ■スパッタリング ■マーブリング ■ドリッピング ■コラーージュ ■フロッターージュ ■デカルコマニー ■ウェットインウェット ■コロコロアート ■スタンピング ■パッチク 	資料集や冊子を参考に名称や使用道具、手順、条件、制作のポイント等をしっかり理解する。	金網とブラシ・彩液とバット・ストロー・写真の切り抜き・硬貨・線対称・紙の折り方・ジャバラスポイト・ビー玉・レンコンとスポンジ・クレヨンとろうそくの各テクニックの道具や材料の使い方を正しく理解し、小作品を10種類を完成させる。	小作品はモダンテクニックの冊子にまとめ、作品ごとに感想をまとめる。作品はできるだけ掲示し、仲間の作品の良さを知る。	電子黒板 タブレット
3学期	1月 2月	7	<ul style="list-style-type: none"> ■ウェットインウェット ■コロコロアート ■スタンピング ■パッチク 				
	3月	2	・擬音語のオブジェ(アイデアスケッチ)	教材とその制作の目的や目標に準えて、言葉から受ける場面(イメージ)を具体的に考え、その色や形を自由に組み合わせ、試行錯誤したり、シミュレーションしたりする。	360°から見た形、底面や俯瞰した形をとらえてデッサンする。どこにどんな追加材料を利用するかも考え、自分で準備する。	アイデアスケッチの記録を残し、ノートに貼り、保管、次年度に生かす。	タブレット

評価計画

【各観点ごとの評価方法】

評価資料	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ポスター ・資料収集 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・制作過程(作品・画像) ・完成作品 ・ワークシート(振り返り) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・ノート ・アイデアスケッチ(原画) ・他、提出物